

4・5年次で「課題探究」の夏季講座を実施しました。

7月25日（月）午前中、総合実践室で4・5年次生対象の「**課題探究の夏季講座**」を実施しました。講師は、**読売新聞東京本社・編集局教育部**の古沢由紀子部長さんでした。講義のタイトルは、「**課題探究がなぜ大切か ～新たな学びの形とは～**」でした。

本校では、4・5年次で週1時間の学校設定科目「**課題探究**」を実施しています。この取組は「**一人一研**」とも呼ばれ、自分で選んだテーマについて探究します。4年次には構想発表会と中間発表会があり、5年次には校内発表会と**論文執筆**があります。分野別に**25のゼミ**があり、教職員全員がチームを組んで指導・助言をしています。これは、物事を深く追究し、論理的思考力を養う「**並木メソッド**」の集大成になっています。

本日の古沢由紀子教育部長さんの話の中で、私が特に印象に残った言葉を書きます。

- ◆「課題探究」は先取りです。今後「総合学習」は「**探究活動**」になります。また、小中高校のすべてで、「**アクティブ・ラーニング**」が導入され、大学入試にも反映されます。
- ◆課題探究でつく力は、「**自分で考え、調べる主体性**」「**自分の意見をまとめて表現する力**（**文章を書き、発表する力**）」であり、これからの社会で求められる力です。
- ◆**異文化理解**では、「異なる環境で育った人と**協力し合って問題を解決し、やり遂げる力**」が大切です。また、「歴史、文化、科学、地理などの知識、**深い教養**」が必要です。
- ◆ビジネスでも、「**リーダー**」には自国と他国の**歴史への理解**が特に必要です。本や映画からも「異文化」は学べます。

古沢部長さんは、**ロサンゼルス支局**での勤務もあり、「マイケル・ジャクソン裁判」「ニューヨーク同時テロ」など、様々な取材経験をお持ちなので、国際社会に興味・関心のある生徒にとっても大変役立つ内容でした。また、「**RとLの発音**ができなくても、発音が悪くても、**黙らずコミュニケーション**をとろうとするのが大事です。」というお話は、3日後に**ニュージーランド**に語学研修に行く**4年次生**に**勇気**を与えてくれました。

大学入試改革 海外と日本の現場から
読売新聞教育部

急速に進むグローバル化に、日本の大学入試は対応出来るのか
2020年日本の大学入試が変わる

中央公論新社 定価 本冊 1500円(税別)

■古沢由紀子部長さんが担当され、2016年7月10日に発行された本です。**大学入試改革**がよく分かる内容です。著者:読売新聞教育部 発行所:中央公論新社

◆今回の夏季講座の様子が、7月26日付け「**読売新聞**」朝刊32面の地域版に掲載されました。